

まえがき

出張に行く途中の車中で、テープから次のような声が聞こえてきた。

例えば、あの中に、旗が沢山ありますね。「武士が戦いにいくのに、どうして背中に旗を立てて、戦ってるんだ」と考えたのです。旗は何のために必要だったのか、敵に対して旗があるのか、それとも味方の為にあるのかというのが疑問だったんです。

あの絵画とは、有名な「長篠の戦」である。その絵画を見ての疑問である。私は「なるほどね。そんな味方もあるなー。物好きな人もいるものだ。」と思ったものだ。

そういう発想で調べてみたら、全然違うんですね。旗は味方の為にあるのです。そして、それも自分の後ろの方の高い山の上に軍目付がいたのです。そういう人がいましてね、旗を見て、あの武士はどんな働きをしてるということを、「勤務評定」やってたんですね。勤務評定用の旗だということがわかってきたのです。ということは、その旗は敵よりも味方に、自分の後ろの味方に向かってコマースシャルをやったのです。武士のコマースシャル用の旗だということです。これが一つわかったらですね、「あら、これはおもしろいぞ」ということになるのです。

俄然、楽しくなってきたことを覚えている。もう、今から9年程前のことになる。当時の勤務校の教頭先生はNHKラジオ「教師の時間」を録音されていて、そのテープを私に貸して下さったのであった。（テープの内容は、有田和正著作『「追求の鬼」を育てる』16巻に載録してある）その時「有田和正」という名前を知った。「一寸法師」の授業も知った。

なぜ、こんな楽しい授業ができるのか。それも奇想天外な授業が！私もこんな授業がやってみたい。

まさしく、**コペルニクスの**授業観の転換だった。

追試した。そして、自分でもいろいろな歴史史料を持ってきては、それを授業した。授業が楽しくなってきた。「教師」という仕事が楽しくなってきた。

今までとといえば、歴史事象を確認するためにしか、教科書の史料など使ってこなかった。しかし、史料とは、それがあから歴史がわかるのであって

使い方が逆であったのだ。すなわち、今までは、研究者が研究した結果（歴史事象）しか授業してこなかったのだ。ここが、歴史学習を面白くないものにしてきた原因だったのだ。

上記のような楽しさを子ども達にも与えたい、と考えた。楽しさだけでなく、そこに到る方法も与えて、子ども達独自に学習していけないものか、と。

そこで、提案する。

解読型歴史の授業

単に歴史事象を子ども達に教えていくだけでは、歴史の醍醐味は教えられないと考える。やはり、その方法・過程も授業できたらなーと考える。

楽しい授業というのは、有田氏流に言えば、「ネタ」があるからだ。歴史の学習において、「ネタ」というのは、歴史を「読み取って」いく過程での産物だと考える。例えば、「長篠の戦」の絵画では、その絵画を見る目がネタにつながっている。すなわち、歴史（歴史史料）を「読み取って」いるのである。言葉を変えると、「解読」しているのである。

もちろん、いつもこんな授業ができるわけではない。むしろ、全105時間中の20時間、すなわち20%位だろう。しかし、こんな授業を増やしていくことによって、子ども達が主体となって、学習が進んでいくことであろう。

この本では、次のことを取り上げていく。

1. どうすれば、授業者として歴史史料を解読していけるか。
2. どうすれば、その解読したものを授業していけるか。
3. さらに、その解読の視点を子ども達にも与えて、歴史学習における自己教育力をつけていきたい。

その結果として、歴史事象の理解はできるし、人々のくらしや生き方・願い等も学習できるだろうと考える。

歴史は、まだ「未知」の部分が多い。（「誤認」の部分も多いのではなかろうか。）それを将来、子ども達が自由な発想で解読できていたら、最高ではなかろうか。そんな喜びを与えるような授業づくりができたらと考える。そのためには、歴史解読の過程を授業していくことである。名付けて、**解読型歴史の授業**である。

あ と が き

「解説」というテーマで書いてきた。これまでに、「解説」という視点で
たくさんの本が書かれてきた。法則化運動に関しては、

浜上薫 氏 『「分析批評」の授業づくり』他（明治図書）

横山駿也氏 『力をつける説明文の解説法』他（明治図書）

寺崎賢一氏 『暗号の解説』他（ " ）

岩本康裕氏 『名画鑑賞の授業』（ " ）

などの書籍群である。

浜上氏は、国語の物語文の解説として、分析批評で「教材分析「10」の
観点」を示された。同じく寺崎氏も物語の解説において「裏」を読み取る
というキーポイントを示された。又、横山氏は、説明文と詩の解説におい
て「文章解説学」を提唱された。一方、岩本氏は、図画工作科において、鑑
賞の授業法を確立された。

私は、社会科にもこんな観点が必要ではと、考えるようになった。いや、
こんな観点がなければ、歴史を子ども自らが解説していくような学習は無理
だなと考えるようになった。それで、今回、7つの歴史解説の視点を提案し
てみたわけである。4年前から、少しずつ実践を積み重ねてきた。御批判頂
きたい。

このヒントを頂いた有田和正氏、法則化運動代表の向山洋一氏、明治図書
編集部の江部満、樋口雅子両氏に感謝の意を表したい。

1993年 夏 村上 浩一

目 次

まえがき	P	1
目次		4
． 解 読 型 歴 史 授 業 の 提 案		6
1．コペルニクスの授業転換		
2．有田氏の授業を追求する	3	
3．歴史を解説していく授業		
4．7つの歴史解説視点		

． 絵画の解読とその授業	2 2
1．絵解きの方法	
2．「元寇」を解読する	
3．絵画解読による授業	
4．授業実践記録	
． 地名の解読とその授業	4 8
1．地名の由来を考える	
2．世界史（地理）での地名の授業	
3．地名の参考図書	
4．授業実践記録	
． 文献の解読とその授業	6 9
1．『蒙古来襲絵詞』	
2．文献解読による授業	
3．授業実践記録	
． 『モノ』の解読とその授業	8 2
1．人間社会の代弁者＝『モノ』	
2．『モノ』をマンダラ図に	
3．授業実践記録	
． 民俗史料の解読とその授業	9 3
1．岩室甚句 VS 一寸法師	
2．民俗史料分析の6観点	
3．授業実践記録	
． 考古学の利用とその授業	1 0 8
1．推理と復元	
2．授業実践記録	
． 一般資料を使った授業	1 2 4
1．新聞を使う	
2．授業実践記録	
． 子どもの歴史解読例	1 3 7
1．社会見学での解読	4
2．西南戦争の解読	

